

南信州広域連合第1回広域連合会議 結果報告

日時：令和4年4月18日(月) 16:05~17:00

場所：県飯田合同庁舎301号会議室(講堂)

【出席者】14市町村長、副管理者

〔天竜川上流河川事務所〕佐藤所長

〔南信州地域振興局〕丹羽局長

〔飯田建設事務所〕油井次長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔下伊那郡町村会〕岡庭事務局長

〔飯田市産業経済部〕串原部長・星野参事

〔TOJ信州飯田ステージ実行委員会〕熊谷事務局長

〔飯田広域消防〕有賀消防長・北澤次長兼総務課長

〔環境センター〕飯田事務長

〔事務局〕吉川事務局長・小椋事務局次長兼総務課長・伊藤地域医療福祉連携課長

伊藤庶務係長・松澤庶務係主事

1 開会…16:05

2 広域連合長あいさつ

今年度、第1回目の広域連合会議です。新年度になり職員体制も変わりましたので後ほど紹介します。前回の広域連合会議からの主な動きとしては、長野県知事及び長野県警察本部長に対し、飯田警察署及び(仮称)南信運輸免許センターの設置に関する要望活動を実施しました。このような形で要望書を提出できたことは大きな前進であり、引続き具体的な内容について調整を図っていきたいと思います。

3 協議・報告事項

(1) 令和4年度の職員体制、新任職員の紹介 【事務局長、消防長】 ~資料No.1~

*資料に沿い、令和4年度の職員体制について紹介。

(2) 令和4年度事業概要について 【天竜川上流河川事務所長】 ~資料No.2~

ア 事業概要について

- ・令和4年度事業費は、6,268,328千円(河川事業費1,319,328千円、砂防事業費4,949,000千円)。予算額としては国土強靱化予算等により手厚くなってはいるものの、昨今、多数の災害が発生しており、全ての要望箇所に対応できない状況。優先度をつけて対応していきたい。
- ・主な河川事業箇所は、山吹地区河川整備事業(継続)、太田切川急流対策事業(新規)、南向地区堤防整備事業(継続)、伊那地区河道掘削事業(継続)を予定。
- ・主な砂防事業箇所は、北川砂防堰堤改築(大鹿村)、ツベタ沢砂防堰堤(飯田市)、小嵐第3砂防堰堤(飯田市)、コスマ沢砂防堰堤(飯田市)、小沢川砂防堰堤(飯田市)、尾尾余ヶ沢砂防堰堤(飯田市)を予定。
- ・事業効果について、令和3年8月の出水において、天竜川鷲流峡対策(令和2年度末概成)を実施していなかった場合の水位と実施後の水位を比較した結果、水位が約1m低下した。これにより、決壊氾濫リスクが低減したと推定される。

イ 危機管理について

- ・天竜川上流河川事務所では、災害発生時の情報収集・復旧活動の一翼を担う、災害対策車両を配備。

地方公共団体からの要請に基づき、災害対策車両等を派遣し災害支援を行っている。出水や山火事等が発生し捜索活動が夜間に及ぶ場合なども排水車や照明車による支援をしているので、機器が不足している際には、遠慮なく当事務所にご相談いただきたい。

ウ 令和4年度天竜川上流総合水防演習について

- ・令和4年5月22日に飯田市川路地籍で水防演習を実施予定。この演習については全国8箇所を実施するもので、中部地方整備局については天竜川が代表箇所となっている。頻度としては毎年1回実施している。大雨による水害や土砂災害に備えた連携の確認や水防団の演習などを実施予定。

→ 質疑等なし

(3) 産業振興と人材育成の拠点(エス・バード)の管理・運営状況について【南信州・飯田産業センター】
～資料No.3～

ア 管理業務の実施状況

- ・南信州広域連合産業振興と人材育成の拠点条例に定める拠点の設置目的に沿って、同条例第5条で指定管理者が行うこととされている業務について、管理業務に携わる従事者を配置し、関係法令及び基本協定書等を遵守して適切に実施。
- ・地域内における新型コロナウイルス感染症の拡大により、施設の臨時休館を余儀なくされたが、感染防止対策を徹底する中での利用に努めた。

イ エス・バードの利用状況

- ・令和3年度の利用者は34,317人(3月末現在)であり、令和2年度の22,346人と比較して51%の増加。
- ・新型コロナの影響により8/20～9/13(25日間)及び1/11～3/6(55日間)に臨時休館となったにもかかわらず前年度比増加となった要因は、長野県が設置するコロナワクチン接種会場としての利用があったことや、秋のイベント等が実施できたことが大きいものと分析。
- ・インキュベート室は全10室のうち、5室が入居中であり、令和2年度と同数。
- ・エス・バード通信を発行するとともに、SNSも活用して、エス・バードの情報を発信。

ウ 航空機システム共同研究講座の状況

- ・信州大学内に新たに航空機システム分野横断ユニットが設置され、令和7年3月までの4年間の講座が継続し、地元で構成するコンソーシアムによる支援を継続。
- ・令和3年度は新入生7名と2年生4名の計11名が在籍し、これまでに15名(平成30年度:2名、令和元年度:6名、令和2年度:3名、令和3年度:4名)の学生が修了。
- ・年度末に修了生による研究発表会を開催し、地元企業の技術者との意見交換を実施。
- ・修了生は、重工業企業をはじめ航空機関連企業等に就職しているほか、県内企業への就職や知見を蓄えた社会人学生が市内企業に戻るなど、県内企業の人材の確保・強化に寄与。
- ・教員と学生が、地域の小学生を対象に飛行機教室を開講するなど、将来における地域産業の担い手育成にも寄与している。

エ ランドスケープ・プランニング共同研究講座の状況

- ・令和5年度の開講に向けて、地域内外の企業・金融機関・行政等によるコンソーシアムを設立。
- ・講座を担当する教員が決まり、令和4年4月からエス・バードに着任。講座内容や演習フィールドの検討を実施。

オ 環境試験機器の利用促進に向けた取り組み状況

- ・これまでに導入した5台の環境試験機器(H28着氷試験装置、H29防爆性試験評価装置、H30燃焼・耐火性試験装置、R1高速温度変化試験装置、R2高周波振動試験装置)の利用促進と試験所の機能強化のため、専門的な知見を有する「部門長」を置き、ISO/IEC17025試験所認定を取得。
- ・令和3年度の飯田工業技術試験研究所の利用件数は全体で762件(航空機の環境試験98件、EMC194件、食品系試験74件、その他396件)。
- ・利用料収入は、令和2年度比12.9%の増加(参考:令和元年度比2.8%の増加)。

- ・環境試験機器については、各種会議や航空機環境評価試験シンポジウムにより広報周知したことから、引き合いが増加。
 - ・食品系試験機器は、自社製品の高度化・高付加価値化に取り組む食品企業の利用が増加。
- カ 指定管理者として目指すエス・バードの方向性等について
- ・平成30年度に策定した「公益財団法人南信州・飯田産業センター産業振興ビジョン（計画期間：平成30年度～令和10年度）」について、令和3年度から令和6年度を中期計画とする定期的な見直しを実施しており、新型コロナウイルス感染症などの社会情勢の変化に対応しつつ、当地域の強みを活かしながら産業面で「自立し、共に創造し、選ばれる地域」を目指して取り組んでいく。
 - ・コロナ禍からの経済再生、地域を支える既存産業の高付加価値化を図るとともに、新産業創出へのチャレンジ支援や、大学院生から社会人、将来を担う世代の人材育成に取り組んでいく。
 - ・産業センターの自主事業や関係機関との連携事業を通じて、エス・バードの価値を高め、適切な施設の管理運営により、多様な主体の共創の場として新たな価値が創造される拠点となることを目指していく。
- 質疑等なし

(4) ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージの開催について 【TOJ 信州飯田ステージ実行委員会】
～資料No. 4～

ア 開催趣旨

「ツアー・オブ・ジャパン」は、1982年より1995年まで開催された「国際サイクルロードレース」を継承するもので、1996年にUCI（国際自転車競技連合）公認のステージレースになったことを契機に現在の名称に変更され、国内を代表するステージレースとして位置付けられている。

1981年5月の自転車基本法の施行に伴い、国民の自転車安全利用の促進と自転車を通じて健康増進を図ることを目的とし、毎年5月を「自転車月間」と定め、全国各地において自転車関連の諸事業が実施されるに至る。中でも「ツアー・オブ・ジャパン」は国内最高峰の国際的な大会であり、「ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ」を風光明媚な飯田における世界的なスポーツ大会として実施し、自転車を通じて青少年の国際交流と国民の体育の向上に寄与しようとするもの。

イ 名 称

UCI 公認国際自転車ロードレース

『2022 ツアー・オブ・ジャパン 信州飯田ステージ』 ー第1ステージー
(レースクラス：UCI アジアツアー-2.2)

ウ 日 時

2022年5月19日（木） 10時～13時20分頃（下久堅小学校グラウンド前）

エ コ ー ス

下久堅小学校前をスタートし、県道1号飯田富山佐久間線を通り、下久堅地区内の1周12.2kmを10周して、そのまま国道256号線を上り、再びスタート地点である下久堅小学校前でフィニッシュとする。

オ 出場チーム

全16チーム（※海外1チーム、国内15チーム）

※アメリカ国籍のチームであるが、出場選手についてはすべて国内選手

→ 質疑等なし。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策について 【飯田保健福祉事務所長】

*先週末、当保健所管内において、過去一番多い76人の感染者数を発表した。一方、入院が必要な患者数（原則、酸素投与を必要とする患者）は感染者数と比較して減少傾向。これは、高齢者の感染者数が減少したことが要因と思われる。1月、2月は全体の感染者数の約20%が65歳以上の高齢者であったが、現在については、約6～7%程であり、その多くは、保育園、小学生等の子どもやその親世代へ切り替わっている。高齢者の感染者数が減少した要因は、3回目のワクチン接種が進んだこと。
まだまだ終息というわけにはいかないが、抗原定性検査等で、早期に発見・隔離をすることで、社会への拡がりは一定程度に抑えられており、少しずつ社会活動とコロナがバランスをとって進んでいるのではないかと感じている。

(主な意見等)

連合長：これからGWを迎えるにあたり多くの人の移動があると思うが、広報の内容等について、保健所あるいは県の方でなにか考えていることはあるか。

飯田保健福祉事務所長：全国的に徐々に感染を経験した人の割合が増えてきており、東京都では人口の約1割が感染している。飯田保健所管内については、1.8%程ではあるが、決して感染することが珍しくはなくなっている。ですので、引き続き早期の発見・隔離に心掛け、例え周りで感染者が発生しても非難しないことが大切なことだと思っている。
ウイルスは徐々に弱毒化しているものの感染力は上がっている。しかしながら重症化することはあまりなく、上手につきあっていくことが大事である。

(6) ウクライナに対する支援について

連合長：この件については、管内の市町村長で共同声明をとの話もあったが、それよりは各市町村で具体的な行動をとっていくものと思っている。また、高森町で具体的な受入の話が出ている中で、今後行動を伴っていった際に、高森町で全てを受入れるには大変なことかと想定する。南信州広域連合の構成市町村としては、高森町から要請があればできる限りの協力をするということをお断りしておきたい。
高森町長からなにかご説明はありますか。

高森町：連合長から話をいただいた通りである。いろいろな状況下でいろいろな事が変わっていくため、現在、なにが正しいのかということは細かく話ができないが、是非そういう行動が進んだ折には、構成市町村の皆様に協力をいただき、快く住みやすい環境の中で受入をしたいと思っている。ご理解ご協力をお願いします。

(7) 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）委員の選出について 【事務局次長】

～資料No. 5～

*令和4年度の三遠南信地域連携ビジョン推進会議の委員の選出について依頼あり。規約により、副会長は飯田市長があたることとなっている。委員については、昨年度に続き、副連合長・下伊那郡町村会長である豊丘村村長にお願いすることでお諮りしたい。

→ 異議なし。承認される。

(8) 飯田警察署及び（仮称）南信運転免許センターの設置場所に関する要望について 【事務局長】

～資料No. 6～

*飯田警察署及び（仮称）南信運転免許センターの設置場所に関する要望活動について報告。

ア 趣旨

飯田警察署及び（仮称）南信運転免許センターの設置場所について、現在の飯田警察署とその周辺を希望することを南信州広域連合として確認したことから、長野県及び長野県警察本部に対し要望活動実施。

- イ 要望先 長野県知事
長野県警察本部長
- ウ 要望内容 要望書のとおり
- エ 要望者 南信州広域連合 広域連合長 佐藤 健
南信州広域連合議会 議長 井坪 隆
- オ 同席者 長野県議会 小池 清 議員
長野県議会 小島 康晴 議員
長野県議会 熊谷 元尋 議員
長野県議会 川上 信彦 議員
(随員：吉川事務局長、伊藤庶務係長)
- カ 実施日時 令和4年3月28日(月)
警察本部長要望 11:00～11:15 (公安委員会室)
知事要望 11:40～12:00 (第三応接室)

キ 要望の状況

長野県警察本部長からは、県警本部として適地であれば、早期に建設を行いたいとの返答あり。
長野県知事からは、地域の思いを反映できるように取り組みたい。まずは県警本部で、機能や技術的な検討を行ってもらい、風越公園や創造館の担当部局には、関係者の理解や協力を得られるように検討させる。事業の推進には、地元の皆さんの理解と協力が不可欠であり、責任をもって取り組んでいきたいとの回答あり。

→ 質疑等なし

(9) 飯田広域消防本部から 【消防次長兼総務課長】 ～資料No.7～

ア たき火火災ゼロ運動期間中における火災発生状況等について

*実施期間 令和4年3月1日(火)から3月31日(木)まで1か月間

*たき火火災ゼロ運動中の取組事項

- ・横断幕、のぼり旗、ポスター等による啓発
- ・車両等による広報 (252回、285時間)
- ・たき火実施場所へ出向いての現地直接指導 (23件)
- ・たき火届受付時における指導 (たき火届受付数1,907件) ※令和3年度受付件数 8,245件
- ・チラシによる啓発
- ・広報誌・ホームページ等への掲載
- ・家庭ごみ等の野焼き焼却禁止の周知

*過去5年の1月から3月までの火災発生状況

※()は、たき火等の火災件数

	1月	2月	3月	合計	たき火等の火災割合
平成30年	7 (4)	11 (10)	17 (12)	35 (26)	74%
平成31年	7 (3)	12 (6)	14 (4)	33 (13)	39%
令和2年	7 (4)	10 (5)	12 (7)	29 (16)	55%
令和3年	5 (0)	14 (6)	7 (3)	26 (9)	35%
令和4年	8 (3)	11 (7)	13 (10)	32 (20)	63%

※ たき火等の火災 (屋外での火の取扱いが起因する火災)

- ・本年の火災件数 3月31日現在、32件で前年より6件増加。
- ・たき火等の火災は20件(期間中10件)で、前年より7件増加。 総件数の約63%
- ・20件中、風に煽られて火災になったものは、12件で約60%。
- ・20件中、18件が無届たき火であった。

- イ 4月11日現在 火災発生状況について
- ・火災発生件数について（4月11日現在）
→ 35件（前年同日比 +9件）
 - ・火災による死者
→ 0人（前年同日比 △1人）
 - ・火災による負傷者
→ 5人（前年同日比 ±0人）
 - ・たき火火災発生件数
→ 21件（前年同日比 +12件）
- 質疑等なし

(10) 後援依頼について 【事務局庶務係長】 ～資料No.8～

*いいだ人形劇フェスタ 2022

- 期 日：令和4年8月4日（木）～8月7日（日）
会 場：飯田文化会館、飯田人形劇場ほか飯田市内外の約140会場
主 催：いいだ人形劇フェスタ実行委員会、飯田市、飯田市教育委員会
開催目的：1999年より開催。子どもたちの豊かな情操を育み、多くの世代と様々な地域の人々の交流によって、地域文化活動の振興や誇りと愛着の持てる地域づくり、人形劇文化への貢献を目指すもの。

*2023 中部の私立大学・短期大学 大学展 飯田会場

- 期 日：令和4年6月19日（日）
会 場：丘の上 結いスクエア
主 催：愛知県私立大学広報委員会・中日新聞社
開催目的：多様な進路選択の機会提供によるミスマッチ防止を目指し、地域人材の育成ならびにUターン就職支援を全面に打ち出すことによって、地域を巻き込んだ進学相談会を開催。飯田市が支援する高等教育機関3校の個別ブースによる進学相談会を同時に実施する予定。

*第7回うるぎトライアルRUN

- 期 日：令和4年10月9日（日）
会 場：売木村内
主 催：売木村、うるぎトライアルRUN実行委員会
開催目的：ハードなコースの達成感・強烈なインパクトを与えられる日本一過酷なフルマラソン大会を企画。豊かな自然を駆け抜けることで感じられる癒し・手作り感満載のあたたかさ、地球に配慮したグリーンレースの推進といった「走る村うるぎ」ならではの取り組みを今後のランニングイベント並びにスポーツ合宿等に提案し、また多くの人に売木村に関心を持ってもらい、訪れてもらう機会にするもの。
→ 異議なし。承認となる。

(11) その他
特になし

4 長野県から

【地域振興局長】

*長野県名古屋事務所の移転先等について

昭和41年から入居していた旧中日ビルの建て替えに伴い、中長期的な視点から名古屋事務所の機能強化や望ましい立地環境等について、名古屋事務所のあり方検討会を設置し、検討を行ってきた。検討結果は以下のとおり。

◇移転先 名古屋市中区栄四丁目 101 番地他 中日ビル

◇理由

- ・ 道県事務所が集積した中京圏の拠点としての全国物産観光センターが用意され、複数県が集積し、集客力が向上。
- ・ イベント企画やWeb、SNS を活用した情報発信などに対しフロアレディレクターがコーディネート。
- ・ 栄のランドマーク的なビルで認知度が高く、地元新聞社による情報発信力が大きい。
- ・ 名古屋における国際MICE機能の強化。

*南信州地域のテレワーク施設ガイドの作成について

昨年10月の移動知事室の際の拡大版地域戦略会議において、観光・産業のPRをはじめとして、県と市町村による連携した取組みの推進について提案をいただいた。そのことを受け、南信州地域のテレワーク施設ガイドを作成。東京、名古屋、大阪事務所や銀座長野に置いているほか、移住交流の相談の際にも活用している。市町村においても是非活用していただければと思う。

5 当面の日程について

5月16日（月） 広域連合会議（県合庁301号会議室）

6 その他

特になし

7 閉会…17:00